

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成22年4月14日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長
松 本 紘

事 業 区 分	平成21年度・大学全体計画事業助成		
事 業 名	学生交流協定学校への短期学生派遣		
成 果 の 概 要	「成果の概要」以外に添付する資料 無 有 (派遣経費交付者一覧)		
会 計 報 告	事業に要した経費総額	5,000,000円	
	うち当財団からの助成額	5,000,000円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	
	経 費 の 内 訳 と 助 成 金 の 使 途 に つ い て		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	別紙のとおり	別紙のとおり	別紙のとおり
	-----	-----	-----
	-----	-----	-----
	-----	-----	-----
	合 計	5,000,000	5,000,000

成果の概要 / 京都大学総長 松本 紘

京都大学では、海外の19カ国54大学2大学群と大学間学生交流協定を締結し、年間80名程度の留学生を、協定に基づいて1年間程度受入れ、本学の正規課程の学生とともに英語で授業を行う国際教育プログラムの授業や通常の授業を受講させたり、研究指導を受けさせたりしております。

この大学間学生交流協定は、留学生を受入れるだけでなく、学生の相互交流を促進し、学生の短期派遣を推進することをも目的としております。平成21年度も、この制度により留学する学生を支援するため、学生交流協定校への短期学生派遣事業として貴財団に申請し、助成をいただいたおかげで、12カ国・19大学へ留学した35名の学生に渡航費の補助として助成することができました。

助成を受けた学生は、その大半が現在も留学中ではありますが、各々の協定校で授業や研究指導を受け、単位を修得し、専攻分野の学習、研究を深め、修士論文、博士論文の作成等に貴重な知識を習得しているはずであり、協定校で修得した単位は、各学部・研究科のルールに応じ、本学で習得した単位と同等のものとして認定される場合もあります。また、学習、研究面で成果があることのみならず、留学で得る経験は、国際感覚の涵養や視野の広がりをもたらすなど、人間としても極めて貴重なものとなり、学生の人生にとっても大きな好影響を与えるものになることは、今までに貴財団の助成を受けて留学した者達の報告からみても疑いの無いところであると思われれます。

大学間学生交流協定による留学者数も、平成16年度の32名から、平成20年度には52名と増加いたしました。平成21年度には37名とやや減少いたしましたが、本件渡航費助成の存在により、経済的懸念により留学を躊躇する度合いが軽減され、留学への応募に結びついていると考えられることも、助成を受けた学生個々の留学成果とは別に、助成の成果ということができると考えております。

留学者数が飛躍的には伸びず、前年度よりも減少する年度もあることにつきましては、協定校の留学担当教職員の話からも感じられる、日本に限らない近年の若者の保守化・積極性の減退化傾向が影響しているやもしれず、本学の関係機構・センターとしても、この状況を踏まえ、より一層の留学促進策を検討してゆきたいと考えております。

前述いたしましたように平成21年度に助成を受けた学生のほとんどはまだ留学中であるため個々の留学成果は帰国後の報告を待つこととなりますが、以上のような意味で、平成20年度以前に助成をいただいた学生、助成をいただいていない学生によるものも含めて、学生から報告のあった留学の成果と言うべき事柄の例を紹介させていただきます。

留学先の地理的・政治的条件等により、そこでしか提供され得ないタイプの授業を受けたり、想像以上に多くの国からの専門を同じくする留学生や研究者と知り合うことができたりして、今後に有益な人脈ができた。

日本語を学習する授業に協力する機会やボランティア活動の機会が持てたことにより現地の学生や一般人との交流が深まり人間的にも勉強になった。

実験技術、論文の探し方・読み方・書き方、プレゼンの手法など、今後の研究活動に役立つ能力を伸ばすことができた。

自分の専門と少し異なる分野の授業にも参加でき、グループによる討論や研究発表を行い、インタビューのやり方、日常会話とは別の英語の使い方など新しいことを学べた。

体系的なカリキュラムで様々な分野を連携的に学習することで基礎的教養が付くような授業を受けることができた。

少人数授業ばかりで良い緊張感の中で学習できた。現地でしか入手できない資料を集めたり、現地でしかあり得ないセミナーに参加したりできて有意義であった。外国人との討議に耐えうる知識や英語力を身に付けることができた。

いろいろな国の学生とともに集中的な語学コースに参加でき、かなりの上達をみた。

教科書の全てを逐一説明せず自分で学習することを求める教授法についてゆくことにより、知識・理解を深めることができた。

決まりきったマニュアルに沿わないフィールドワークや実験の授業は研究のトレーニングとして有益であった。

科目の選択肢が多く設備面でのサポートも万全な留学先で充実した学習ができた。現地学生の学習意欲の高さに刺激を受けた。政治や経済の状況が日本と大きく異なる国での学習・生活は貴重な経験となったので後輩にも伝えたい。

現地語能力が他の国からの留学生より劣っている劣等感をバネに必死で勉強した結果、大きく上達するとともに、研究に必要な粘り強さを高めることができた。法律がその国民の考え方、生き方を反映していることを実感できた。

前半で留学先の言語や文化の理解を深めるための科目を受講し、後半に自分の専門について学んだことで、充実した学習ができた。

内容や難易度の点で、京都大学の授業の素晴らしさを実感できる面もあった。

学生交流協定校への短期学生派遣 被助成者一覧

	所属	学年	性別	留学先大学	留学先国	出発	帰国	助成額
1	文学研究科・文学部	B3	女	ストラスブール大学	フランス	2009.9	2010.6	15万円
2		B2	女	シンガポール国立大学	シンガポール	2010.1	2010.5	10万円
3		B2	女	ミュンヘン大学	ドイツ	2009.10	2010.9	15万円
4		M1	女	ウィーン大学	オーストリア	2010.3	2011.1	15万円
5		B3	男	ストラスブール大学	フランス	2009.9	2010.6	15万円
6		B3	男	スタンダール大学	フランス	2009.9	2009.12	15万円
7		B3	女	コンコルディア大学	カナダ	2009.9	2009.12	15万円
8		B3	男	ストラスブール大学	フランス	2010.1	2010.6	15万円
9	教育学部	B3	女	マンチェスター大学	イギリス	2009.9	2010.6	15万円
10		B4	女	ハワイ大学	米国	2009.8	2010.5	15万円
11		B2	男	トロント大学	カナダ	2010.1	2010.12	15万円
12	法学研究科・法学部	D2	男	トロント大学	カナダ	2010.1	2010.4	15万円
13		B2	女	ストラスブール大学	フランス	2009.9	2010.6	15万円
14		B2	男	ジョージワシントン大学	米国	2010.1	2010.5	15万円
15		B2	男	ストックホルム大学	スウェーデン	2010.1	2010.6	15万円
16		B3	女	マンチェスター大学	英国	2009.9	2010.6	15万円
17		B3	男	シェフィールド大学	英国	2009.9	2010.6	15万円
18	経済学部	B3	女	マギル大学	カナダ	2009.9	2010.4	15万円
19		B4	男	ハワイ大学	米国	2009.8	2009.12	15万円
20		B4	女	ペンシルベニア大学	米国	2009.9	2010.5	15万円
21		B3	女	ペンシルベニア大学	米国	2009.9	2010.5	15万円
22	工学研究科・工学部	M1	男	ウォータールー大学	カナダ	2009.9	2010.4	15万円
23		B3	女	ウォータールー大学	カナダ	2009.9	2009.12	15万円
24		M1	男	トロント大学	カナダ	2009.9	2009.12	15万円
25		B3	男	ウォータールー大学	カナダ	2009.9	2009.12	15万円
26		M1	男	ウォータールー大学	カナダ	2009.9	2010.8	15万円
27		M1	男	ウォータールー大学	カナダ	2010.1	2010.12	15万円
28		M1	男	ウォータールー大学	カナダ	2009.9	2010.8	15万円
29		B4	男	ウォータールー大学	カナダ	2009.5	2010.4	15万円
30	農学研究科・農学部	B3	女	シンガポール国立大学	シンガポール	2009.8	2010.4	10万円
31		B3	女	ストックホルム大学	スウェーデン	2009.8	2010.6	15万円
32		M1	男	国立台湾大学	台湾	2009.9	2010.7	5万円
33	公共政策大学院	M2	女	清華大学	中国	2009.9	2010.1	10万円
34		M2	女	ローザンヌ大学	スイス	2009.10	2010.2	15万円
35		M2	女	ライデン大学	オランダ	2009.9	2010.1	15万円
合計								500万円